

マーケットの動き（2024年7月16日～7月19日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。週初は前週の6月の米国CPI（消費者物価指数）の下振れを受け、米国長期金利が低下した流れが続き国内長期金利も低下しました。しかし、河野太郎デジタル相の日銀に対し利上げを求める発言などから日銀による利上げが意識されたことで国内債券への売りが広がり、金利は低下幅を縮めて週を終えました。クレジット市場は、ほぼ横ばいとなりました。

投資環境見通し（2024年7月）

国内長期金利は緩やかに上昇

日銀は6月の金融政策決定会合で、長期国債の買い入れ減額に関する今後1～2年程度の具体的な計画を次回7月会合で決めるとの方針を示しました。短期的には早期の減額観測が後退し、長期金利の上昇圧力が和らぐとみられますが、日銀総裁は同減額については「相応の規模になる」と述べるとともに、「経済・物価情勢次第で7月の利上げの可能性もあり得る」との見解を示していることもあり、国内長期金利は緩やかに上昇するとみています。

	7月19日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	1.04	▲0.02	0.09	0.38	0.57
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	357.90	0.13%	▲0.63%	▲2.60%	▲4.18%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202407_outlook.pdf

日本国債利回りの推移

（期間：2023年6月30日～2024年7月19日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2023年6月30日～2024年7月19日）



※2023年6月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>